

2025 年 6 月 30 日

学校法人三幸学園
福岡ウェディング&ブライダル専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 浅井 大士

学校関係者評価委員会実施報告

2024 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 浅井 大士（アイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社 支配人）
- ② 久芳 幸子（西岡総業株式会社 主任）
- ③ 高木 まいり（GHS 株式会社 第 7 期卒業生）
- ④ 宮田 采紀（株式会社ベルマリエ 第 7 期卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025 年 6 月 25 日（会場 福岡ウェディング&ブライダル専門学校 201 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024 年度 学校法人 三幸学園 福岡ウェディング&ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 武藤 洋和・藤川 千奈美

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 浅井 大士委員

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・主体性を持てるような指導が必要

⇒学生自ら挑戦や選択ができる環境の設定をした

・1年生のうちに多くの事を経験が出来るような教育体制が必要

⇒行事や企業インターンシップの設定をすることで様々な視点で学べる環境をつくった

・早期就職など企業様と連携を図り早期内定をいただけるように働きかけを行う

⇒企業様と連携をはかり、年度の前半で就職講話(イベント)を持ってくることや早期選考枠をいただくことができた

・卒業生支援が出来るよう卒業生 LINE を活用し支援や案内を入れていくようにする

⇒同窓会実施に向けて卒業生 LINE を活用し告知をした

② 学校関係者評価委員会コメント

・学生のうちから現場経験(インターンシップ)をしていると入社後の動きがスムーズだと感じる(宮田委員)

・幅広い経験(受付や電話対応など)ができるように企業インターンシップ先として様々な職種を確保しておくの良いと感じる(高木委員)

・現場に入った時の感性の高さやスタートダッシュは大学生より専門学生の方が良いと感じている
現場のシーンを体験・想像できる機会は今後も強めていってほしい(浅井委員)

・企業インターンシップ制度など経験したことを就職先で活かせるように
今後も現場に入れる機会を増やしていく(藤川副校長)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・教育理念「技能と心の調和」や人材育成像を学校内外に浸透していくことが必要
- ・学生の変化/ニーズによって方法を検討していくことが必要
- ・現場に出た際に早い段階でお客様の対応に入れるよう、技術力・接客力の向上が必要
- ・学生の資格取得や知識/技術面を向上させる為、教職員の指導力向上と創意工夫が求められる

② 今後の改善方策

- ・引き続き保護者説明会の中で教育理念や育成人物像について説明をしていく
- ・学生の変化、現在のニーズに合わせた対応が出来るように研修を取り入れる
- ・現在のブライダル業界の動向や状況を把握する為にも企業訪問を通して最新の情報を知ることが必要
- ・即戦力として活躍できる人材育成に向けて、教科担当教員の知識・技術の手合わせを引き続き実施

③ 特記事項

- ・月一回の教科会にて教科の手合わせを実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・“技能と心の調和”の教育理念は在学期間で先生たちが伝えてくれていたため意識して行っていた。
社会に出た時に両方必要だと改めて思った。（高木委員）
- ・行事などを通して教育理念は伝わってくる。なぜ、このことが大切なのか考えさせながら
学生へ言葉として伝わるように日々伝え続けていってほしい（浅井委員）
- ・大学生より専門学生の方が分野の知識が多くある為、先にプランナー職種などに優先的になれている
（高木委員）
- ・まずは結婚式の良さや価値を知る為に現場ではサービスから配属することが多いが
専門学生は現場意識や知識がある分、早い段階で次のステップに進むことが出来ている（浅井委員）
- ・専門学生だからこそ学べる知識・技術を引き続き教えていってほしい（浅井委員）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・オンデマンドやオンラインなど多様な授業運営に向けて教員の理解力向上
- ・学校運営や授業実施において、著作権利用などの新たな規則や関係法規の理解が必要

② 今後の改善方策

- ・WEB の使い方など教員間での勉強会の実施
- ・コンプライアンスや著作権について教科会などを使って周知・認識の統一を図る
- ・引き続き月一回は教科会を実施し教職員間での認識の統一を図る

③ 特記事項

- ・WEB でのコンプライアンス研修(テスト)の実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ブライダル現場でも著作権/コンプライアンスは大切。今後も重要視していくべき(浅井委員)
- ・教職員は年度始め、WEB でのコンプライアンス研修(テスト)の実施をしている(藤川副校長)
- ・SNS の取り扱いなどは学生へも定期的にキャリアの授業を使って伝えている(藤川副校長)

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4

関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員的能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・企業インターンシップや行事を通して主体性を持って行動が出来る学生の育成
- ・企業インターンシップをするメリットを明確にし、履修できる学生を増やす体制をつくる
- ・現在の学生の状況に合わせた授業運営の実施をする
- ・資格取得を向上させる為教職員の指導力向上と創意工夫が必要

② 今後の改善方策

- ・企業インターンシップへの取り組みとしてメリットや将来の強みになる部分を明確に伝える
- ・授業運営をしていく中で今は何の時間なのか、何をするのか、何の為にするのかなど目的を伝える
- ・教科担当ごとに手合わせを実施し理解の進捗、ずれがないか都度確認をしていく

③ 特記事項

- ・授業運営向上に向けて教員研修の実施
- ・集中して検定対策をする検定 WEEK の設定

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・明るく元気によく挨拶をしてくれる
清掃担当へも挨拶がきちんとできている様子が日頃から見えるので今後も大切にしてほしい（久芳委員）
- ・本校卒業生や在校生は即戦力になっている為レベルの高い事を任されている事が多い（高木委員）
- ・相手はどう感じるかを考えられるよう技術面とともに心も磨いていける教育を今後も行ってほしい（浅井委員）
- ・表情や挨拶などは社会人 1 年目でもできる大切なこと（宮田委員）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

- ・退学率を軽減する為、選択ができる環境を設定する
- ・卒業生がどのように活躍をしているのか把握/在校生へ還元をすることが必要
- ・早期就職に向け企業様との連携を図り、就職活動のスタートダッシュがきれるようにする

② 今後の改善方策

- ・引き続きチーム担任制にする事で相談窓口を増やすことができ退学軽減に繋げていく
- ・ゴールを見せながら一つずつ出来ることを増やしていけるようにスモールステップを設定する
- ・ワークコンピテンスを使ってそれぞれの行事や授業でどのような事を身につけていくのか明確化し定期的に進捗の確認をする
- ・引き続きオンラインカウンセリングの設置
- ・卒業生 LINE や同窓会を通して卒業生の様子を把握し卒業生講話や就職採用に繋げる
- ・企業様と早い段階で関われる環境をつくり動けるようにする

③ 特記事項

- ・集中して検定対策ができる検定 WEEK の設定

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業後も企業で活躍している方のセミナーや講話などがあると自分自身の勉強になる為参加したい(宮田委員・高木委員)
- ・卒業生と在校生の座談会など気軽に話せる場があると質問などもでき、在校生のモチベーションアップに繋がるのではないかと(浅井委員)
- ・就職イベントを開催する際に講話だけではなく座談会という項目も取り入れていく(藤川副校長)

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4

学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・教職員が業界動向を理解すること
- ・業界発展に向け、早期キャリア教育として、中学校/高等学校との連携も引き続き実施
- ・卒業生支援の内容、卒業生ネットワークサイト SANKO LINK の活用方法を強化
- ・学び方の多様性(集中講義/オンデマンド)活用

② 今後の改善方策

- ・企業様講話や企業訪問を通して業界動向を理解し教科会を通して教職員間でも共有をする
- ・同窓会や卒業生が学校に来校できる環境をつくれるよう卒業生 LINE などうまく活用する
- ・保護者連携アプリの活用
- ・引き続きオンラインカウンセリングの設置

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・オンデマンドで自分のペースで集中して学べることはメリットに感じる(高木委員)
- ・人と関わる仕事をする為対面の授業もちろん必要だが、検定取得など集中できる環境がつけれるオンデマンド授業も並行していく(藤川副校長)

(6)教育環境

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・企業インターンシップの動機づけを引き続き実施
- ・企業インターンシップを通して企業連携の強化

② 今後の改善方策

- ・企業インターンシップをするメリットを伝え、主体性や積極性を身につけられる環境をつくっていく
- ・学生の状況を確認しながら現場の様子、学生の課題を早い段階でキャッチし教育の中に取り入れていく

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・校舎をきれいに使っている(久芳委員)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・早期対策が出来るように職業理解/学校理解を深める
- ・進路がなかなか決まらない子に対して将来の選択肢を与えられる環境をつくっていく

② 今後の改善方策

- ・中学校や高等学校などのガイダンスを通してブライダル業界の魅力を伝えていく
- ・分野の魅力や仕事内容が分かる内容を準備し、オープンキャンパスなどで取り入れていく
- ・結婚式場コラボイベントをする事で現場を知ることができ業界理解・魅力を伝える

③ 特記事項

- ・年に数回結婚式場コラボイベントの実施
- ・福岡県が出している方針に沿って広報活動の実施をしている

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・未来客を増やすための工夫を検討されている企業様もある為、早い段階でブライダルの職業について触れることを引き続きしていくと良いと感じる(浅井委員)

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・教職員間での個人情報取り扱いの認識強化を図る

② 今後の改善方策

・月一の教科会内にて個人情報取り扱いの認識レベルの統一を図る

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・学校運営をしていく中で引き続き地域連携/ボランティア活動などを積極的に行う

② 今後の改善方策

・引き続き地域連携ができるボランティア活動など積極的に参加をしていく

③ 特記事項

・博多どんたく/秋のステージはかたに参加

・博多駅のクリーンディ活動に参加

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・学生たちが自分で考えて選択をしながら学べる環境をつくっていく
- ・いただいたご意見をもとに学生や卒業生に向けて適切な学校運営を実施していく
- ・プライダル業界の現状などを引き続き企業様と連携をしながら把握、授業運営や教育の中で取り入れていく
- ・卒業生と在校生との繋がりを意識しながら卒業生支援にも力を入れていく